

Centimetres

KODAK Color Control Patches

© The Tiffen Company, 2000

Kodak  
LICENSED PRODUCT

Black

3/Color

White

Magenta

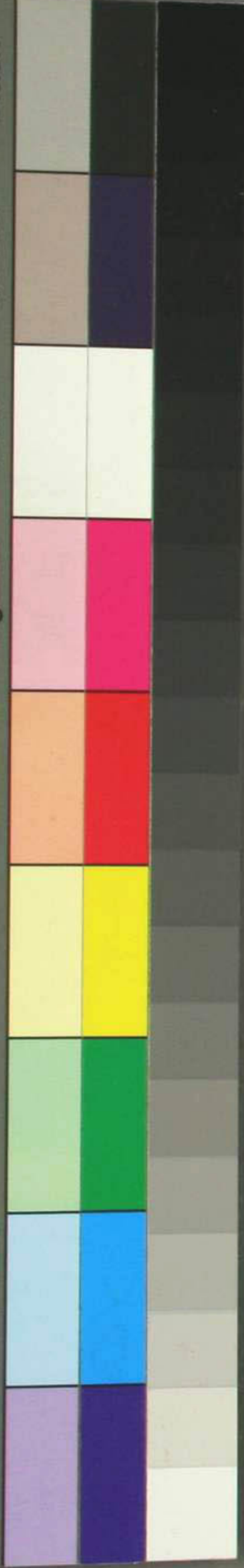
Red

Yellow

Green

Cyan

Blue



不破付左衛門  
名古屋山二

昔語箱妻表紙

五



3  
1884  
5



へ遠13  
1884  
5

昔話 稱妻表紙巻之四

江戸

山東京傳編

本清

十三 修羅の大鼓

まさにも 銀杏の前ハ山三郎小扶られて生駒山の禁まそおちのびしが  
 辻堂あて追手の者小捕へられ不破道犬が手小つりて蜘蛛方の  
 深殿おくまりたる一間のうち小押籠られて日のかけだふること  
 わつと月若の身の人苦ふあるうに朝夕の食事だふあつく小  
 多へざれば心気日ふおとろへ身体夜ふ小ヤセをそめて命も危く  
 又えみ入志のころむと度々蜘蛛手方と密談して大殿判官の  
 命とのつりつといて人の前を引ひいて二人くわぐ昼夜なそあさ  
 寤現まひかりて月若のゆくへ白杖せよと責小けしてむげんまかいふの

古今圖書集成

前まへの三日さんびつ之夜のらのうづせり下くだつぬきておぼえむねわら大耳おほみみのをふ  
 大鼓おほづをまじしてゆきととさぬきまがのうちもゆきと夢ゆめ幻まぼろしの  
 世よの中なか小林こばやしもえせぬぞ哀あはれある及およ大眼おほめといふしいふりて人の前まへの月つき  
 若わかびのさくもあつぬるいもあじさく白しろ状じやうしりさぬ大殿おほのどのの  
 炭命たんめいるゆがさるものぐぬぬ処ところと責せめまへつて人の前まへの眼まなこおぼげ目めを  
 ひらきて苦くるしみげ息いきをつきかくさるるに責せめまへひ夜よも昼ひるとも  
 おもひえむ夢ゆめり現うつる寝ねて醒さるてりワわささるるちまぬいさるるといと  
 としとる人ひと我子わがこよともわりさるるあつぬらうのうちふいそでいさでり  
 ほくかふるるに推量おしひらして及およむとのさぬひつも又またゆきまへ又また大鼓おほづを  
 打うて目めとさぬきとゆきぬ打うて醒さる水みづ責せめ火か責せめまへふらうもさるる  
 まらうる責せめ苦くるしみあると傍かたわらうると蛇へび手て方かた小膝こひざとさるるちうくさるるいさで

づかうふ三日さんびつ三夜さんやの責せめるゆがまこと現うつるあつぬおぼへるるに責せめまへ  
 といひ一言ひとこと白しろ状じやうせしといふらもいささ骨ほねをひき肉にくとさるるいさ  
 さでやいあつぬきのでいれを答こたへて角つのるに夜よ早はやのさぬいさひつ  
 なる形勢かたちありいさ人の前まへ親おやとあげいささふのさぬいさあつぬいさ  
 まへる一ひと片ぺん時ときもをや殺ころしあつが情なさけをささるるいささ泣なみだあふ細こま  
 昔むかしの髪かみとさるもさるうさふさふさりあげいと親おやさしう襟えりもふはさるる涙なみだの  
 白しろ玉たまの夷あまの国くにの胸むね装かざりと目め前まへるるちして哀あはれあるといふもあつる蛇へび手て方かた  
 声こゑあつらげあつるあつらぬ女めめらるるも本性ほんせいあつる白しろ状じやう甘海かんかいいささ  
 手て成なりゆらゆら責せめはひして現うつるうちふいささ泣なみだあふ大鼓おほづおつて下くだ知しる  
 あつらたかこいさて耳みみのさるささつて鼓つづみこを打うちあつるいさ  
 前まへの才さい小せうとて修しゆ羅らの大鼓おほづふことさるるいささ一いつ百ひゃく三さん十じゅう六りく地獄ぢごく品しんの

つとたる可責みも。たぐひまねるる責苦あり。かゝる折しも。その次の者  
 せせまあり。黒星眼平只今。飯国つるつり。おん次ふひ久。おんやと  
 まちゆいとききあゆむ。及大歩団。それいそだらぬへ。とつよぞ。と  
 小と退きぬ。やどあく眼平。まるとい。椽側小頭。とまげ。といひ。久  
 月若どの。ゆくとたぐひ。おん首おて。まふれ。とのおふせふ。まも所  
 方とたぐひ。ゆいとあゆち。註進の者あり。て丹波の国。穴太の里。小住  
 六字。南无右衛門と申。と者。かくまひ。かくは。同い。じ。ゆい。急い。とまき  
 む。ゆい。所。よ。彼者。い。じ。て。打手。の。む。う。入。う。と。知若君。と。つ。れ。て。の。れ  
 去。り。ゆ。い。ま。ぬ。ぞ。あり。ゆ。い。あ。む。右。衛。門。と。申。と。い。別。人。あ。ら。ぶ。と。佐。良。三。八  
 郎。が。と。ふ。ゆ。い。と。假。首。と。う。け。と。し。お。の。が。越。度。い。お。か。じ。ま。と。と。ヤ。ウ  
 小相。の。ぞ。知。手。方。ら。ぬ。と。同。い。そ。の。残。念。あり。あ。る。う。い。い。て。の。前。と

せしるも無益き。かれいど。小殺。と。た。ぐ。あ。ぬ。も。羅。免。月。若。の  
 あり。う。を。い。え。ん。と。う。と。ふ。今。日。ま。せ。も。り。け。あ。ま。ぬ。が。大。殿。の。ふ。く。う。と  
 て。助。命。あ。り。と。あ。い。後。日。の。さ。ぬ。た。げ。あり。さ。り。く。か。れ。と。殺。ま。ぬ。し。  
 月。若。三。八。郎。が。ゆ。い。の。ま。ふ。ま。ひ。く。た。ぐ。あ。え。し。及。太。と。ち。い。ゆ。と。ゆ  
 せん。と。の。ま。ふ。及。太。と。ち。い。ゆ。と。ゆ。せん。と。の。ま。ふ。ま。ひ。く。た。ぐ。あ。え。し。及。太。と。ち。い。ゆ。と。ゆ  
 も。後。縁。い。ま。し。く。む。む。幸。ひ。日。も。く。れ。あ。ん。と。い。れ。バ。今。宵。の。ま。ち。ゆ。い  
 看。打。ゆ。い。い。ま。眼。平。あ。ん。ち。い。ゆ。の。前。ま。の。を。棄。物。小。の。せ。夜。小。ま。き  
 せ。そ。岩。倉。谷。小。か。き。ゆ。い。ひ。と。ふ。お。ん。首。お。て。ま。ふ。と。命。け。れ。ぬ。  
 眼。平。腹。心。の。ま。り。と。い。び。つ。ぎ。庭。さ。ふ。棄。物。と。わ。れ。り。ゆ。い。を。夢。現  
 ま。て。打。伏。た。る。ゆ。い。の。前。と。惜。ま。る。も。あ。ら。ま。い。ま。て。高。手。小。手。小。は。し  
 わ。げ。て。棄。物。小。お。い。ま。り。た。か。せ。ゆ。い。と。ひ。て。庭。ぐ。い。小。ゆ。い。岩。倉

谷がやのしほだちまきぬ。いそ人の前まへへらのらうのほりぬを乗物のりもののうち熟じやく  
 睡い。舟ふねのわきうも露つゆまきど屠所とろじよのゆゆのわどもち岩倉谷いそがや  
 中なかにつぎ眼平がんぺい下知しげちして。そのある処ところは乗物のりものをよゑゑせ戸ととあけていそ  
 の前まへとひれいど。いそ人の前まへへは時ときふらとて。やういそにぬらうま  
 目めとひらいて。先まが我身わがみとわさうまぶ。いそ人の縄目なまめの四方よもぎとあけて  
 えけいせいの月の光ひかりのわきうまきぬ。いそ人の所ところとあつて。松吹風まつぶかぜ  
 梢しやうとあつて。谷がやの水音みづね耳みみひびく。いそ人の心こゝろとあつて。いそ人の心こゝろ  
 焚やみのうちあつくと更さらふらむひをぬえり。いそ人の眼平がんぺいむむ合あていひけら。  
 いそ人の前まへの前の。此この所ところの多おほく岩倉谷いそがやといそ所ところの大殿だいでんの度命たのみことに  
 うらて唯ただ今いま見み首くびとあつて。念ねん仏ぶつまじたく。おれいそ人ひととあつて。いそ人ひと  
 と。情なさけあけあせしける。いそ人の前まへを引ひき。いそ人の前まへと我わが身みも今いまあつて。

捕とらへらしたるその時とき。覚悟かくごのう人の命いのちをぬぐ。いそ人ひととあつて。いそ人ひと  
 がねども。今いま般ぱんのうら唯ただ一目ひとみ。月若つきわがとあつて。いそ人の心こゝろとあつて。いそ人ひと  
 さり。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。  
 こも。いそ人の心こゝろとあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。  
 眼平がんぺいとあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。  
 とて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。  
 ひらいて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。  
 飛とえつ。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。  
 とつ。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。  
 いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。いそ人ひととあつて。



つてふの前  
山岩谷に  
あいて首を  
うんとを  
時何者  
とも志水を  
大刀よりと  
打ころして  
いてふの前と  
うびひ去る



是善人悪人。敵味方。何人とりよ。こと成る。むは者  
の姓名成る。んと要せ。巻之五の下册第十九回と讀得  
て知る。

十三 霊場の熱鬧

その比近江の国石山寺の觀音菩薩結縁のなり用帳ありけり。名に  
あつ。美場あり。ね。ろ。ね。ふ。ま。く。を。来。る。人。士。女。老。少。群。集。綿。絡。繹。  
こ。そ。せ。む。れ。ち。ぐ。く。も。た。え。ど。誠。是。行。川。の。な。り。の。と。ま。る。ふ。く。ふ。  
似。り。商。人。ど。も。か。ら。あ。ら。ひ。よ。乘。り。て。過。分。の。福。と。得。ん。と。依。假。  
屋。と。つ。つ。草。津。鞭。守。山。鞆。高。宮。布。長。濱。糸。大。津。針。高。嶋。硯。武。佐。  
墨。水。口。笠。辻。村。の。鍋。の。た。ぐ。ひ。玄。惠。法。印。の。庭。の。訓。小。も。や。る。の。す。で。あ。の。  
が。さ。創。ぐ。持。と。び。て。山。の。ご。く。つ。ろ。あ。ぐ。ね。買。人。の。雲。の。ご。く。ふ。あ。す。ら。ぬ。

あ。ひ。酒。賣。家。あ。り。餅。菓。賣。軒。あ。り。劍。所。を。つ。り。て。茶。と。ひ。く。者。  
あ。り。小。弓。の。射。場。ま。う。け。て。ど。ち。こ。と。者。あ。り。あ。ひ。長。劍。を。懸。て。  
茶。と。う。く。今。様。と。う。ひ。て。鐵。と。同。も。ほ。る。片。輪。者。見。も。や。ば。ね。  
鳥。獸。と。ど。奇。と。あ。や。ま。の。を。と。る。所。幻。戲。盤。脱。刀。玉。縁。竿。の。た。ぐ。ひ。  
奇。妙。の。術。を。施。と。斬。る。と。処。せ。れ。ま。ぞ。立。る。む。笛。吹。音。鼓。打。声。四。方。み。  
ひ。た。て。か。ぬ。び。と。諸。人。の。耳。目。と。お。ろ。う。む。大。路。の。うち。み。薦。と。を。れ。  
か。け。り。穿。は。く。と。紙。も。て。を。け。招。牌。不。辻。談。義。露。の。五。郎。兵。衛。尉。と。墨。  
く。ろ。み。か。を。つ。け。て。戸。口。の。け。た。る。あ。り。か。れ。が。い。ふ。と。同。と。て。人。あ。る。と。は。い。ひ。  
居。たり。講。師。た。う。兒。床。の。う。み。の。り。書。案。の。う。み。柄。木。の。か。じ。と。お。た。ま。の。  
あ。の。ぶ。れ。を。前。み。た。と。聽。聞。衆。ふ。む。ひ。ま。は。り。阿。弥。陀。經。を。考。る。子。如。來。  
ハ。五。劫。の。回。思。惟。し。む。ひ。上。ハ。一。人。下。ハ。婆。々。嫁。々。み。の。る。ま。で。殘。り。あ。り。

ちとひこしあとの御座言願ハ。あつて我々まで。あつてかくたふさたふさ  
 あり。かたがゆふ不弥陀如来ハ寝あんとあつてあつてあつてあつて居あふ  
 こつとあつて。十万里あつて。の西方へ。あつてあつてあつてあつてあつて衆生  
 の地獄をほくろとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 持国多聞あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 ぼくぼく御分別あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 書案と搦地あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 らくハあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 うんうん少女のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 牌をかかげあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 人をあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

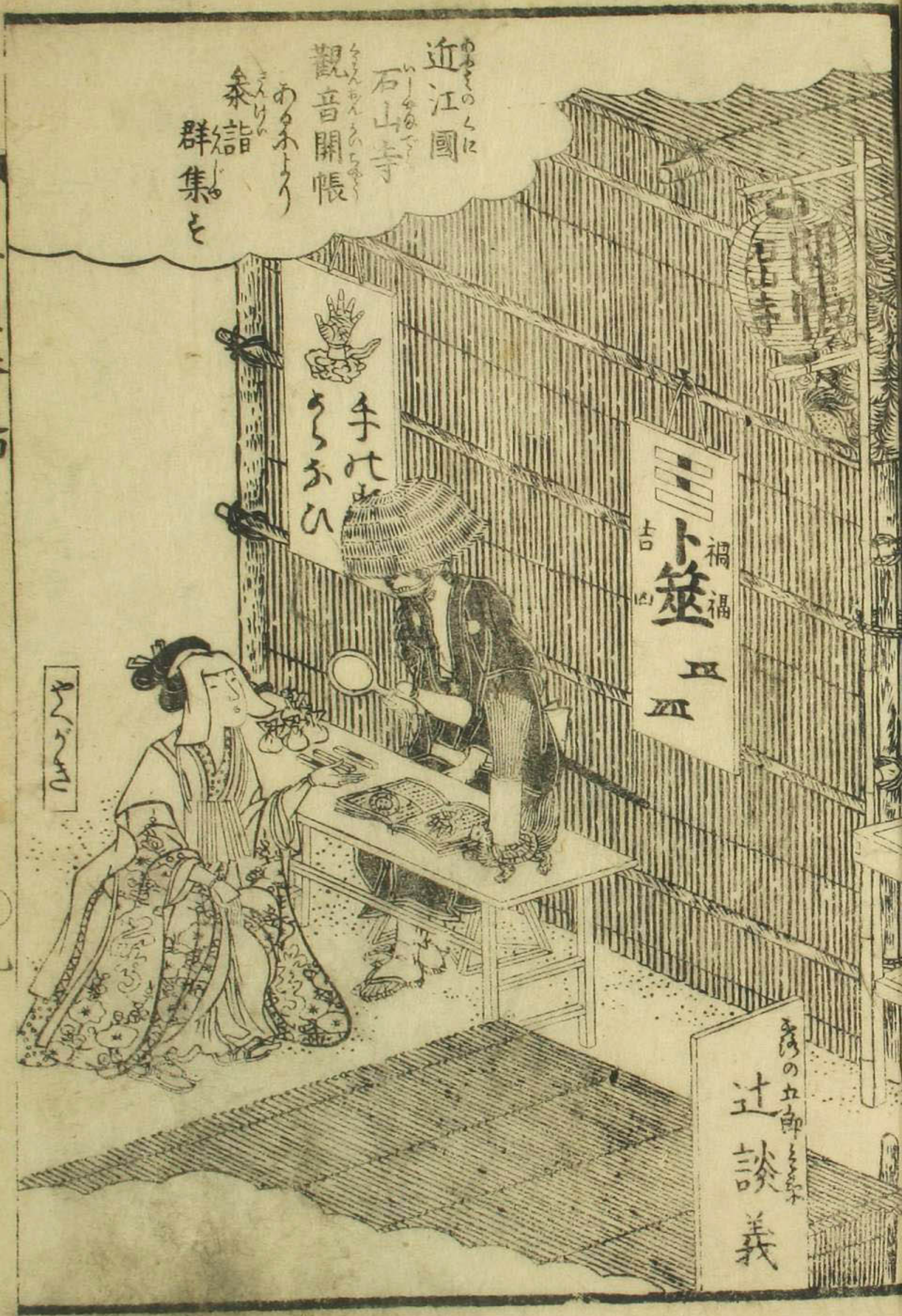
は女子こそ。丹波の国あつて。奥山小住権師の子あつて。殺生の罪科親の  
 因宗の子あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 容ハ世小あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 あたり。十ッ罪障消滅の便もあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 都小あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 ろつ。観音堂のあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 代末同又あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 こつとあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 蟻のごとく小集。蜂のごとく小群りて。あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 ひーりたあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて  
 右侍門が娘あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

右侍門が娘あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて



ころ。頭うしろも花はな弁びんをさう一ひとつげし。色いろ元もと結むすをむきどび。髪かみの由よしひがぬも今いま  
 様さま不ふころとあげて。阿あ曾そ比ひめ代しろなる容よう不ふはくると床とこ机ぎめきとてる。めめく  
 う人ひとみ。紅こうの毛け氈じゆんまきとて尻しりけけたる。姿すがた嬋せん娟けんたる牡丹ぼたん花はなの咲さりを  
 たるごころとめて。あたりもかゆむととけけれど。腹はら手て首くび咽のどらび  
 ちとみ蛇へびぞもいっつとまう、まらひはけ。かぬくびをぞ、たて赤あかさ針はりの  
 ち、ちち舌しほを吐はきいっ。目めを石いしちくどとせり。ひくさぬ。えんもさへ、の毛けを  
 たりむりむり見けん物ぶつの諸しよ人にん何なにの遠とほ慮りよもあく。これが教くわをちりぐとち  
 まりのら。虫むし卵たまごもこれあり。娘むすめもみかく。妖まじか蛇へびふえる。これにおし。はさまた  
 むらぶ。かふるあき。返かへさき。たふちりみたる。これかゆう人ひと集あつてえいする  
 ころ。の女むすめいふ。びりぞやろつとん。あふ不ふ父ちちのこと。とらへ傍たがひの人の  
 けり。あく。これが親おやめ。さうして非ひ義ぎ非ひ道だうとて。あひつ。悪あく人にん

ちらめ。それゆゑ。不ふ親しんの因果いんぐわの子こもむいて。わうあき。返かへさき。たふちり  
 はらめ。さるあ。これ者もののうみりけけ。け子こあらね。これも又また姿すがたをさうりじ  
 けれ。志こころざしいさぞあ。けけ。まの人のよき戒いかぢめ。かう人ひとが小こ面おもてさすは。ひる  
 への。そのま。さう罪つひ科かのま。えうと。さうさう。憐あわれむ。びた。み。あ。か。び。人ひと  
 ぐ。く。く。く。さ。や。り。ぬ。あ。ど。の。ぐ。ふ。り。つ。と。同どうつ。人ひとが。小こ教くわまり。り。さ。う。楓かぜが  
 苦くるしさ。い。ま。さ。り。あ。ん。さ。う。の。し。ろ。さ。う。抑おさ石いし山さん寺じハ石いし光こう山さん寺じ。天平ていへい  
 勝かち宝ほう六りく年の草くさ創さうあり。聖せい武ぶ天てん皇わうの朝あさ僧そう正せい良りやう辨べん如にょ意い輪りん觀くわん自じ  
 在ざい丈ぢやう六りくの尊そん像ぞうを安あん置ちま。一いち十じゆ有ゆう餘よ年ねんを。経へたる。灵れい場ぢやうあり。後ご  
 連れん峯ほう峩いこ。う。て。岩い間げん望ぼう取と醍たい醐ごふ。け。あり。前まへハ勢せき田でん川がわのあ。これ  
 水みづ林りんこ。こ。て。湖こ水すゐふ。け。く。け。此こゝ地ちの月つきを賞あやうして。近ちか江え八はち景けいの一いつ勝しょうと  
 せるも。う。ぶ。あり。初はつは。法はふ寺じの門かど前まへふ。び。り。の浪なみ人ひと。深ふか編あむ笠がさふ。面おもてを。か。り。し。

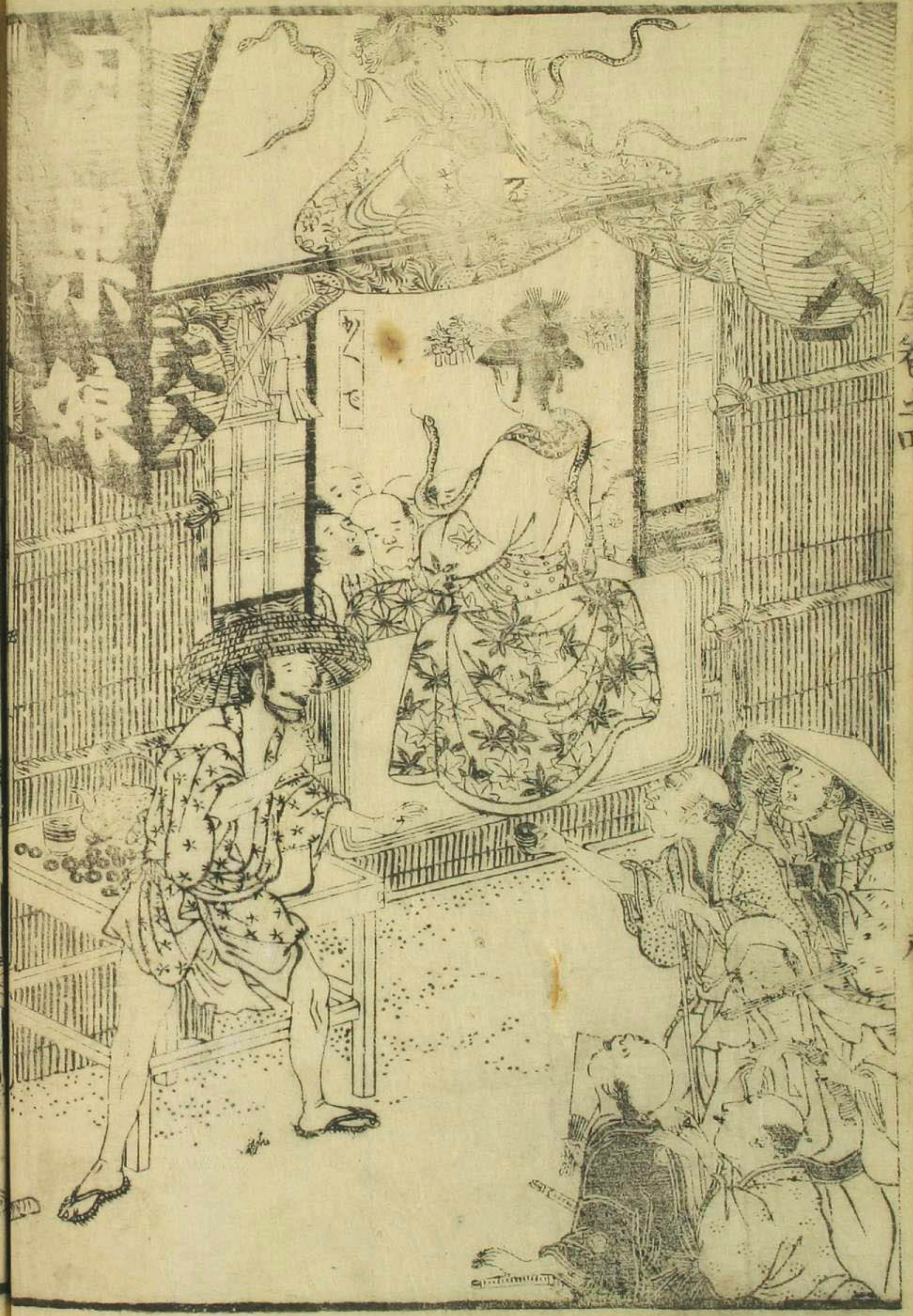


近江國  
石山寺  
観音開帳  
あひ  
衆詣  
群集と

あひ

吉  
卜筮  
福

義  
談  
立  
の  
立  
義



巻之四

小鼓を打つ。月あけほし。小倉山その名のり。けりしこと。を舞く。のうらひとら。たひ物を。をさなまり。往來あ。その人のうち。うら。身のころ。むひ十六七とお。容兒。ま。れ。娘。田舎。深。さ。い。ぬ。れ。紅。の。こ。ら。り。此。梅。の。小。枝。小。春。霞。立。田。の。山。の。雪。鳥。の。く。文字。と。標。ふ。さ。い。び。した。る。木。綿。の。振。袖。着。て。り。し。を。あ。げ。禪。衣。か。け。手。復。脛。巾。草。鞋。を。穿。菅。の。小。笠。と。た。ぐ。さ。へ。て。巡。礼。の。道。者。と。又。え。た。る。女。の。浪。人。の。傍。み。ち。づ。き。初。も。ま。ね。じ。た。鼓。の。音。ど。と。ひ。ひ。つ。ま。ぎ。な。う。ら。浪。人。編。笠。ぶ。り。小。女。と。ほ。ろ。く。そ。さ。も。り。あ。し。さ。い。ま。お。こ。あ。さ。時。出。雲。の。国。大。社。の。社。家。み。養。子。に。ほ。か。り。た。る。八。重。垣。あ。の。あ。ま。り。ふ。の。女。ら。れ。を。同。お。ら。り。さ。な。る。さ。あ。て。ま。が。り。答。も。せ。ど。只。お。ま。り。り。て。居。る。浪。人。ら。う。ら。び。い。ぬ。け。ん。か。く。雪。落。し。て。む。う。う。ふ。か。り。

次女あね。むら。う。も。理。る。り。そ。声。と。ひ。そ。ら。る。れ。じ。の。か。こ。が。兄。長。谷。部。雲。六。あ。ら。と。り。あ。ぞ。女。ハ。益。あ。ら。り。さ。な。る。体。あ。り。り。り。か。く。て。雲。六。女。と。の。ま。ふ。い。さ。ま。い。せ。ま。ゆ。き。を。い。ひ。け。り。の。母。と。忍。ぶ。り。あ。ら。人。目。か。や。れ。ぬ。あ。ま。の。面。を。あ。う。う。が。じ。か。こ。の。何。ゆ。急。か。る。次。女。と。あ。り。具。せ。る。人。も。か。く。若。さ。女。の。あ。を。た。ひ。り。り。は。思。ひ。来。り。じ。ぞ。と。ま。れ。て。女。さ。の。兄。う。ら。あ。て。い。け。り。の。と。を。そ。涙。に。じ。と。さ。ま。わ。ど。や。ら。の。算。お。た。ふ。う。り。あ。て。り。い。ふ。け。か。た。ぐ。ぬ。る。人。小。あ。め。と。い。ひ。の。ま。ま。と。あ。え。通。一。の。う。り。あ。ま。い。と。と。妻。が。薄。命。と。同。て。な。ぶ。養。家。の。父。母。は。春。ワ。グ。二。月。の。回。あ。つ。ま。て。お。ま。り。あ。い。む。い。妻。ひ。を。と。あ。の。の。し。し。が。養。父。の。弟。あ。て。妻。が。な。め。あ。い。伯。父。あ。る。人。養。父。の。遺。財。を。奪。え。ん。た。く。と。あ。て。情。う。く。も。妻。と。あ。い。あ。い。め。れ。ば。せん。と。ぶ。あ。り。ば。う。け。兄。う。ら。の。あ。い。を。お。の。う。ら。を。た。の。う。ら。





依木桂之助



辻談義を承の  
五郎を承の  
名古屋山三  
菩薩建立  
まの娘二即  
依木桂之助の  
危難を  
とく

依木桂之助

時ふの男棒をひきとちぎてそそ平伏し土小頼とさうほはそ恭く  
 いひけふ某察しきふ君の佐木若殿挂之助国知公ふくさひは  
 実とおんあしむいれしと相のぞく虚无僧頭を打ちり。さあひうけさる  
 度と同りのうさ某の一所不任の修行者あて。さうり卑賤の者あり  
 ぬるじも人たぐいあふまといふの者あていさく。五をさのふおん才  
 ありば容易小実とおはしむぬも埋るり。先ちがれが身のうち前ふ  
 詰まこえまへん。それちがれおん家士名護屋山三郎が僕麻呂  
 之中と者の年様二郎とそ者あてぬぬい兄とあふ山三郎小はく  
 えづじが。あうぬいおえありて仕へん辞し。吉郷河内の国おつりて今世  
 うちまざる三郎左衛門不破伴左衛門が為小間打ふあひ山三郎へ平  
 郡の館の騷動おはれて。たぐれが住家おちまへ。さうあ君のおんあ  
 へとたづねて安否とこひをり。二つあ伴左衛門をたづね出て父の仇を  
 ひくんと。我くお命どて所、方をたづねり。さうら山三郎麻呂と具  
 て西国小旅立ちつりぬ。ちがれ露の五郎を店と名を更迭談義ふこととせそ  
 京大坂へちまおとせど。所へ人立ちおれ処にいつりて専尋ねりぬ。さうふ  
 唯今君おめぐりのあひをいれ。我く主従が一念さきし所へ去るあ時さう  
 某等がごとけ賤をいれ。おん姿と拜し。さうことなもあふまはるふ。面前拜  
 謁はるぬつ。勿体あるさうといひて。実心面おられぬが。虚无僧あうか  
 ばにさう誠心と同う。何をさうさむべに。汝が推量したるを我へ挂之助へ  
 汝が面へんさうといふも。山三郎があふべ。麻呂様次郎とそ兩人ありさ  
 ちしてさう因やびぬ。このさうひゆぬが。様二郎へ買加あるおん詞あつし  
 ぬらまふおあへんべり。不破ちたが悪意奥方若君のあふのうへふ

へとたづねて安否とこひをり。二つあ伴左衛門をたづね出て父の仇を  
 ひくんと。我くお命どて所、方をたづねり。さうら山三郎麻呂と具  
 て西国小旅立ちつりぬ。ちがれ露の五郎を店と名を更迭談義ふこととせそ  
 京大坂へちまおとせど。所へ人立ちおれ処にいつりて専尋ねりぬ。さうふ  
 唯今君おめぐりのあひをいれ。我く主従が一念さきし所へ去るあ時さう  
 某等がごとけ賤をいれ。おん姿と拜し。さうことなもあふまはるふ。面前拜  
 謁はるぬつ。勿体あるさうといひて。実心面おられぬが。虚无僧あうか  
 ばにさう誠心と同う。何をさうさむべに。汝が推量したるを我へ挂之助へ  
 汝が面へんさうといふも。山三郎があふべ。麻呂様次郎とそ兩人ありさ  
 ちしてさう因やびぬ。このさうひゆぬが。様二郎へ買加あるおん詞あつし  
 ぬらまふおあへんべり。不破ちたが悪意奥方若君のあふのうへふ

捕手とりての着かぎも人数あんとぞとまゝまじ来りては家いへととりかゝみ声こゑたやふよりけりいひ  
けい。ささやどは家いへふかされたる虚うつろ无僧むそうの佐木桂之助さきけいすけのすけ国知くにちふらとひは  
いふ国知くにちち官領職くわんりやうしやく濱名殿はまなとのとの内意うちのかいふり。勘当くわんたうけけたるまを遣恨せんい  
ふるひ。むそふ野依浪人のゐりなうぢどもをかきひ。濱名はまなのふ敵たてせんせんとらる。は註進ちゆうじんの  
者ものありてさそしめされ。かめとりてまたさそと教令けうれいとやうりて我輩われら  
をせむひつるあり。のねぬ所ところどくらふ出いできさうていぬ。めとらけ。ささやど  
手てむひでし奴やつれも。ちんぢふ一味いちゐの者ものあるん。めめ奴やつれもさくくくさくくいひ  
首くびひさむらとをひきまうせんむらとを口くちわぬ猛たけくの志こゝろれども。猿さる二郎にじろがされ  
わらの手てちんぢふおそれて内うちふさす。いんぢる者ものの独ひとりもさく。只たださつがし  
のちちりけり。時ときふあると障子まじり母人ははと影かげうつり。桂之助けいすけの声こゑとていみぢち  
らあづまりて我われいあづり。と別我耻べつがぢとあひびて今日こんにちまでいささく二人ふたり所ところ不住あらず

ちんぢふ。さあぐやあぶね夏なつあねども途中ちゆうちゆうあてはさこえ。び。び捕手とりての  
奴やつ原人数あんとぞとまゝまじてあさむらふささくんハ必定ひつじやうするべ。さくくくいんぢふを  
かじあふべ。は。び。び。奴やつ原はらまをいひ。あさぐさむらひひびそ。手ておつて  
ささやぬ。ささくむらひの方かたふ家いへあり。あり障子まじり母はは子こ相傳あひつた名な方かた赤  
喜き葉はと筆ふでとふのけけたると門かど口ぐちふたて。外とのめあふ。め葉は名なを  
あさ。なる招牌せうはふとわける。あさ。の奇病きびやうのさ名解體なげたいの面めんとさか。さ  
ささくともかきけけ。たる。外療がいはうりやうの葉はとひき。家いへるりけり。核かく二郎にじろ指さしはて。  
め。さ。や。が。旅宿りよどまて。幸さいあ。は。京きやう上かみりて家いへふと。只ただ龍りゆう尊そんの老僕らうぼく  
あつ。た。れ。と。め。め。者ものも。ぬ。り。ど。と。桂之助けいすけのすけといひてめの家いへふら。さ。  
う。ち。裏うらふ入りてあると障子まじりとふら。め。と。引ひたて。声こゑを。さ。さ。と。居ゐる。と。  
けり。は。時とき己おのれふ日ひハ。早はやて。夕月ゆげ夜よの光ひかりと。の。ゆ。く。る。り。けり。早はやして

古今通義

一四

小さな一ひつるが。そもそも武運も尽きたるが、おんま所におもてらしたまひ。腹のさやぐりて相果るぞじ。あいつらいざ首とさうて高名おせよ者さもこぶらりけるが。やぞ障子のささるぬらうも。鮮血をさそるれりぞぬ捕手の者けれおとらてささる首さうて貴銀おあぐりんこ遅速とあそひ障子とおたうて内とあねば。いふ桂之助あひのぼして正面の胡床のうらみ。人の長やどおぼるも五臓六腑といろざりなる。神農の胴人形。右お茶匙と持たりふ茶草とさうたる。とまゝおさめ障子のひぬらう血口とええい赤膏菜みぞありけり。の者さもこれとえて只あそひて酒お酔なそしけるが。さそい歌のれなる口ゆらさう。ささあても今の声い桂之助おまざれば。かこふのれらうふうとびひさうとて奥の一回と目おけて走りゆんとびゆれ誤りて傍みのりける。荒籬とさうたやーはが。たちまち数多の蛇のさう出てのれけり。

手脚おまもひつさけらあぞお驚てさうさたち。又誤りて膏菜鍋とふみおーければ膏菜足のらふねぐりつさそそるぬら蛇の手うせ膏菜の足おせ。これとのぞゆんこまゝのれおすうられ。おどく進退を失ひて。只騒動さるのりりけり。時分はと猿二郎なをれひささゆい。めらそめげそおつふお打扮明晃々たる大太刀と抜りちて一間のうちさうとさうり出めつさ斬おさうりたる巨がみさく大お狼狽。一人として敵さる者あつらとけり。おの大太刀のりし居合の刃引太刀あねば。さうつけらぬる痕。蚯蚓のごとくちられあがるの。あて一命お懸ははさういふも。あつく塊を奪れて。さうまもい臆なる者さもあねば。糲ふ粘たる蠅のごとく。たあれさうお起も得じ。手とさうり足をさうてらちちふ。ゆらさうお口おむつ。おららじそ起よりけるが。疵持



足の膏薬引ぬらさうらちして。こけりまろびつ述ゆにけり。  
 猿二郎の太刀をさそつ打笑さても臆病ある奴原うま因果娘の  
 蛇どもが。みひもかけど用立し。禍の三年めもひひつべし。こびとを  
 ちりて蛇どもとめり。筑籬やうちわれ一間のうちより桂之助と  
 らもちひ出かどとを殺しゆて。後日のさぬたげふゆ。ワざと  
 刃引太刀ともちひて地ぐん。はらぐくみひさるふ不破乃大君と笑ひ  
 まんとちりて官領の命とりつり。君のおん心みおぢえちる言えを  
 ちしたて。捕手とむけしうふ疑は。大切のおん身ちゆね。おぢも  
 かりじく出あられあどど。おぢ一度又おぢえたるは家小恩を  
 ちと危けど。今宵のうち別所小御座とちりまんと。いざせ  
 むへと催して。つひふ西人のいでゆにけり。

○徒然草小めるまといふ草。蛇小されたるふはしと記とこいども。  
 いあさころいど。蛇小の身をたうあ串柄の肉を粘飯のごとくわり  
 てほくふあくものあ。度くころりけり。一度もあはしるさ度  
 ち。うらさささ煎じての。もまど。蛇毒を解ま。本文蛇の  
 話ふは。て。偶るひいせ。筆のついで。記し。おま。

西 仇家の恩人

爰小又湯浅又平といふ。戸佐正見といふ名画人の弟子也。その才も画  
 道小糸乃たりといふ。由急ありて師の勘当をうけ。そのち正見も小栗  
 と筆のあがそひ小より。勅勘の才とちりぬ。又平の漸と小零落けね。  
 妹藤波白拍子とちりて。兄とちりざけるが。ちも不慮小殺害され  
 まると。困窮しけね。せんさぶち。夫婦ちりも。ちのちとちり

て近江の国おろり大津走井のおろり小住繪おろりをおろり往來の旅人  
 小住とひびく。妹が菩提おろりのおろり為おろりもおろりとおろりふおろりとおろり多分おろり仏像おろりと画  
 十三おろり仏地おろり藏菩薩おろりのおろりたおろりひおろりありおろり。そのおろりらおろりハおろり民おろり百おろり姓おろりの家おろり小おろり木おろり仏おろりたおろりまおろりれ  
 みておろりおおろりろおろりくおろりハおろり又おろり平おろりがおろり仏おろり繪おろりとおろりもおろりあおろりりおろり持おろり仏おろりの本おろり尊おろりあおろりけおろりらおろりやおろり仏おろり繪おろりの  
 小おろりあおろりらおろりどおろり。浮おろり世おろりのおろり人おろり物おろりさおろりらおろりのおろりざおろりれおろり繪おろりとおろりもおろりあおろりけおろりらおろりやおろり浮おろり世おろり又おろり平おろり大おろり津おろり又  
 平おろりとおろりもおろりいおろりつおろりりおろり。あおろりれおろり又おろり生おろりつおろりらおろりておろり吃おろり塞おろりあおろりておろりあおろりりおろりけおろりらおろり吃おろり塞おろりのおろり又おろり平おろりとおろりもおろりいおろりつおろりりおろり。  
 そのおろり繪おろりとおろり大おろり津おろり繪おろりとおろりもおろり追おろり分おろり絵おろりとおろりもおろりいおろりひおろりておろり時おろりのおろり人おろり童おろりあおろりらおろりのおろりめおろりづおろりらおろりやおろり不  
 明おろりしおろりこおろりどおろり。又おろり平おろりがおろり妻おろりのおろり名おろりとおろり小おろり枝おろりとおろりいおろりひおろり。藤おろり波おろりがおろり次おろりのおろり妹おろり阿おろり竜おろりもおろり今おろりハおろり兄  
 又おろり平おろり小おろり養おろり良おろりとおろりこおろり小おろりあおろりりおろりておろり。ひおろりとおろりろおろり小おろり住おろりぬおろり藤おろり波おろりハおろり前おろりつおろり年おろり佐おろり良おろり三おろり八おろり郎おろりが  
 小おろり罪おろりあおろりりおろりしおろりておろり殺おろりらおろりれおろりたおろりまおろりらおろり。又おろり平おろり何おろりとおろりぞおろり三おろり八おろり郎おろりとおろり一おろり太おろり刀おろり恨おろりとおろりておろり妹おろり修おろり羅  
 のおろり宿おろり恨おろりをおろりたおろりしおろりはおろりらおろりんおろりとおろり日おろり来おろりらおろりろおろりのおろりつおろりらおろりこおろりいおろりらおろりもおろり。三おろり八おろり郎おろり出おろり奔おろりのおろりらおろり。

弗おろり小おろりあおろりくおろりハおろりあおろりれおろりらおろりしおろり。むおろりちおろりくおろり月おろり日おろりとおろりおおろりろおろりりおろりぬおろり。初おろりめおろりのおろり年おろりのおろり春おろり菘おろり浪おろりが  
 祥おろり月おろり命おろり日おろりふおろりあおろりらおろりらおろり日おろり妻おろり小おろり枝おろり妹おろり阿おろり竜おろりもおろり今おろりハおろり兄おろりとおろり縣おろり神おろり子おろりと  
 やおろりらおろり。菘おろり浪おろりがおろり口おろりとおろりしおろりておろり冥おろり途おろりのおろりおおろりづおろりとおろりとおろりらおろりぬおろりさおろりておろり降おろり巫おろり上おろり坐おろり小おろり居おろりるおろりあり  
 ておろり目おろりらおろりんおろりのおろり人おろりあおろりやおろり目おろり下おろりらおろり生おろり口おろりとおろりなおろりづおろりぬおろりらおろり小おろり枝おろりとおろりもおろりいおろりでおろり目おろり下おろりの  
 者おろりあおろりておろり死おろり口おろりあおろりらおろりとおろりらおろりらおろり。櫛おろりのおろり葉おろりあおろりておろり水おろりむおろりけおろりらおろりれおろり。巫おろりハおろりこおろりやおろりらおろりらおろりとおろり  
 ぞおろりとおろりいおろりひおろり弦おろりをおろり打おろりあおろりしおろりておろり。且おろり神おろり保おろりとおろりもおろりとおろりあおろりけおろりらおろり。  
 夫おろりはおろりしおろりをおろり敬おろりておろりまおろりりおろりしおろりをおろり。上おろりハおろり梵おろり天おろり帝おろり釈おろり四おろり大おろり天おろり王おろり下おろりハおろり岡おろり魔おろり法おろり王おろり。  
 五おろり道おろり冥おろり官おろり天おろりのおろり神おろり地おろりのおろり神おろり家おろりのおろり内おろりハおろり井おろりのおろり神おろり電おろりのおろり神おろり伊おろり勢おろりのおろり國おろり。  
 又おろり天おろり照おろり皇おろり大おろり神おろり宮おろり外おろり宮おろりハおろり四おろり十おろり未おろり社おろり内おろり宮おろりハおろり八おろり十おろり未おろり社おろり雨おろりのおろり宮おろり。  
 風おろりのおろり宮おろり月おろり讀おろり日おろり讀おろりのおろり御おろり神おろり当おろり國おろりのおろり靈おろり社おろりハおろり坂おろり本おろり山おろり王おろり大おろり權おろり現おろり膽おろり吹  
 神おろり社おろり多おろり賀おろり明おろり神おろり竹おろり生おろり鳥おろり辨おろり才おろり天おろり築おろり麻おろり手おろり明おろり神おろり田おろり村おろりのおろり社おろり日おろり本おろり六おろり十

餘州と云へるの神の政所出雲の国の大神神の数九万八千七社の御神仏の数一萬三千四箇の靈場冥道とらるじ此小降也。かきれありや。は時ふらうぐのそと公残りちり。とてたぐや碎の神り。以て其の諸精霊弓と箭のほびの親一郎がより三郎が人もつり。と水もかりれ。かりぬもの五尺の弓一歩うて。寺ぐの。仏壇もひかくり。

梓の弓ふひゆれ。て。浪があらたなる。すてまうて来つる。や。水も向て。わりのし。主君と。しり。か。か。くも。公。枕が。ひとも。鳥帽子宝と。唐の鏡と。か。ぐ。と。ん。才。あ。も。安堵させ。たの。し。と。せ。ん。と。ひ。も。左。り。繩。ひ。ひ。も。あ。も。毒。の。う。へ。露。も。り。も。罪。あ。り。て。邪。見。の。み。み。才。と。あ。り。と。つ。る。恨

の悪念が。み。才。を。焦。と。炎。と。あ。り。と。あ。み。ひ。の。冥。道。も。今。も。迷。て。居。る。こ。い。も。哀。ふ。ひ。ひ。け。れ。ば。小。枝。泣。声。あ。て。う。う。ま。ぬ。も。こ。こ。も。も。も。冥。途。の。苦。患。も。あ。り。る。ひ。を。し。べ。さ。る。を。ど。胸。あ。さ。り。心。も。消。る。を。し。と。ひ。て。あ。ち。げ。ん。阿。菟。の。う。し。ろ。ふ。打。伏。て。涙。も。む。せ。ぶ。を。う。り。と。巫。の。こ。い。ひ。け。れ。地。獄。の。う。ち。の。あ。ま。り。ま。と。同。て。た。ぐ。妻。が。ご。と。み。み。の。死。に。た。る。もの。か。山。地。獄。と。て。垂。氷。以。さ。る。ぬ。み。植。た。る。ぞ。れ。剣。の。山。と。牛。頭。馬。頭。の。鬼。も。が。る。が。ひ。の。ま。と。あ。げ。て。追。た。つ。ふ。罪。人。い。せん。と。ぶ。さ。る。な。は。さ。け。び。て。え。せ。の。ら。と。を。せ。ら。り。て。苦。し。心。の。妻。も。日。と。ふ。の。苦。と。う。ら。る。ぞ。し。あ。の。火。の。車。の。の。を。て。黒。闇。道。と。や。時。も。あ。り。あ。の。血。の。池。も。ひ。り。て。火。の。雨。も。才。を。焦。と。時。も。あ。り。紅。蓮。大。紅。蓮。の。氷。も。さ。ら。ら。り。と。叫。喚。大。叫。喚。の。炎。も。あ。り。品。の。あ。り。と。あ。り。地。獄。の。さ。る。と。う。り。詞。の。う。ら。ら。る。責。の。苦。し。ら。ち。ち。も。唯。忘。る。と。う。ら



藤波がびふ  
 うかきまの  
 亡魂梓の  
 ひん  
 引小  
 来る

と世又平

妻さへ

妹おつ

敵のおん妻ことちりりくひひるくみひるくみ。おん身ら清夫婦妹ぞしこひひまま。又平  
 目としりりあめ。まけば困ちど不便あり。まがした我とりつぐとて。千辛せん  
 万苦ばんのよめちか。たぬく少の福と得て。さひあやう。殿みめでし。その  
 身の出世とまぶ回もさく不慮の枉死とちした。目は心の残りも理のまりて  
 敵となぐぬりて。仇とむらひて修羅の宿恨をもろこすでははげばどりく  
 仏果と得て悪趣とままぬのゆゑとて。念珠とりまじし。南无阿弥陀仏とまり  
 仏と。とこううつ声も吃寒言バい。哀しぞすさらけり。巫又ゆひけらのああせ  
 こそ我才あり讀経をまさる功徳うれはうのお情也仇とむくそなび  
あ人情あるはらとまで手向たぬりし飯菜もみた鳥もさぬなげはし。  
 妻がもしふとぐまば。 飢ふたぎる餓鬼の飯炎とりて消失ぬればく  
 いみたれ鳥とまけてたぐらぬぐたのりづどり。ある名残とし語りたらば  
 ことのひなさこと。教ありくありて尽ぬれも黄泉の使あげぬべしやいのあやと  
 ぞといひおりて巫目とひられ瘳と抚て居らけり。又平米銭とりて  
 身の旁と謝しけはら巫とけとらけとまら。つれと告をまりりいひぬ  
 扱小枝は。今宵の仏小供びんと高木へ餅買ふ立出た。阿菟ハらんととか  
 ちんひ。らのひりあ香と盛て手向をやと奥へつて又平独らあのら。まと  
 ちぬぬれて居らりける。頃も弥生のもらあて。堅田小おつ雁金も。  
 ちちふ飯る時ちちふ比良の高嶺の雪ちちふ。餘寒をまして肌さして。  
 瀬田ふのあく日のつげも。西方浄土とらあら。辛崎の松風も。常楽我  
 浄とちちあり。栗津の嵐を世中の生者必滅と觀ぶは。又早  
 瀬の船も人の身の會者定離とをるら。石山の月三井の鐘生  
 先長夜の夢の世と悟らる人外の方ふ鈕の音念仏の声いも

ことのひなさこと。教ありくありて尽ぬれも黄泉の使あげぬべしやいのあやと  
 ぞといひおりて巫目とひられ瘳と抚て居らけり。又平米銭とりて  
 身の旁と謝しけはら巫とけとらけとまら。つれと告をまりりいひぬ  
 扱小枝は。今宵の仏小供びんと高木へ餅買ふ立出た。阿菟ハらんととか  
 ちんひ。らのひりあ香と盛て手向をやと奥へつて又平独らあのら。まと  
 ちぬぬれて居らりける。頃も弥生のもらあて。堅田小おつ雁金も。  
 ちちふ飯る時ちちふ比良の高嶺の雪ちちふ。餘寒をまして肌さして。  
 瀬田ふのあく日のつげも。西方浄土とらあら。辛崎の松風も。常楽我  
 浄とちちあり。栗津の嵐を世中の生者必滅と觀ぶは。又早  
 瀬の船も人の身の會者定離とをるら。石山の月三井の鐘生  
 先長夜の夢の世と悟らる人外の方ふ鈕の音念仏の声いも

殊勝しゆせうふささえけり。又平らぬを同ほけて。庭にわふかり立折たておしも。軒端のきりふ  
 通かみふ松まつの風柴かぜの折戸おりどをひびきけし。外そとの方かたとるふふ笈あしとせむひ  
 錫杖しやくじやうとほらして。回国こくにの修行者しゆぎやうこたねりさふ。まごやふがらふ竹垣たけかきの津  
 のうちみたるふと。又平らうづきそいそく。けふも同胞どうぱうの亡霊ちやうれいとまう。  
 志しのあふ。修行者しゆぎやうのありせし。と畢まひるれがら荒屋あらいやのへるふと。ま  
 今宵けふへ我家わがや小一宿せうしゆく。終夜しゆや回向くわうしてむりれう。味あじあういおふさうんが研  
 づの志賀しげ大根だいこん蠲くわん大豆だいず蘇抹そまの斎さいと供養くわう見み。あまぢちふとふらやと  
 いひけぬ。修行者しゆぎやうお同どうて。そいかにじけな。いふと。時ときも八はちつふふと。おふ  
 おし。石部いしべの報謝ほうしゃ宿しゆくとて。もとふひつる。朝あしたの雲くも夕ゆふの霧きり一ひと所ところ不住ふぢの  
 身みのふらぬ。いそぐ。だに様さまもあふ。殊ことふ亡人ちやうじんの志しとあし。ぶ。か  
 だ。ま。う。ば。法ほふ報謝ほうしゃふあ。ぐ。ふ。ん。く。と。いつ。あ。ぞ。又平またへいの。び。く。と。て。む。ひ。い。し。と。

塔井たけいの水みづ小足せうそくとくせ。ハ幡はた回坐くわいざと志しにまうけて。何なにくも。と。も。と。あ。せ。ば。修しゆ行ぎやう  
 者しや喜よろこび憂世うゑせを。ち。あ。れ。一ひと用居もちいの体てい。あ。く。も。し。く。ん。と。あ。い。ふ。又平またへいハ用炉もちろ裏うらみ  
 不灰木ふはいぎうちなれた。尾羽おしほ打うち。せ。浪人なみのりの住居ぢゆうきよお宿しゆく。も。も。あ。ら。じ  
 さ。と。い。ひ。て。信樂しんが焼やの天目てんめふ茶ちやの香かも。う。ま。れ。手煎てせんと。心こころむ。り。の。も。て  
 あり。あ。て。四方山しやうほうざんの話わたりさ。め。く。ふ。か。り。て。立山たてやまの地獄ぢごくを。は。熊野詣くまのまうの。出い入にり  
 の。さ。し。ま。ふ。あ。む。む。と。あ。ぞ。あ。の。が。ら。と。同どうて。時ときと。う。ら。い。は。ら。や。あ。う。て。又  
 平へい仏壇ぶつだんふみあり。な。て。蘇抹そまの斎さいと調ちゆうむるあひ。と。あ。て。法ほふ回向くわうと  
 され。し。と。い。ひ。て。か。く。ふ。り。ぬ。修行者しゆぎやうハ仏壇ぶつだんふむ。い。て。鉦かねあ。ら。し。南无なむ  
 出い入にり頓證とんじやう仏果ぶつぐわ菩提ぼだい南无なむあ。と。い。ふ。く。と。一ひと心こころ不ふ乱らんふ。と。あ。け。る。偶ぐ仏壇ぶつだんの  
 うちと。と。い。ひ。白木はくぎの位牌ゐはいふ。又。善ぜん妙めう劍けん信女しんにょ長祿ちやうろく二年ににねん戊寅ごずい三月さんげつ五日ごにち  
 と。あ。り。あり。修行者しゆぎやうら。ぬ。と。あ。て。あ。ひ。け。ら。か。の法名ほふなのうち。ふ。又。劍けんの

二字ありてふゆべ。ことどもおと又おとふおとゆおとりておとしおと女おとありおとめ。それおとじおと六年おと以前おと  
藤波おとをおと殺おとせおともおと同年おと同おと月おと同おと日おとありおと。廣おときおと世界おとといおとひおとありおとふおとくおと似おとたりおと  
ことおともおとありおとゆおとのおとゆおといおとふおとゆおと長おと祿おと二年おとのおと今おと月おと今おと日おとハおと女おとのおと又おとふおとゆおとるおと日おとぞ。  
おと女子おともおといおとふおとゆおと因おと果おと少おとておと剣おと難おとハおと死おとせおとしおととおと。藤おと波おとがおと変おとふおとひおと合おとせおとておと涙おとと  
おおととおと一おとつおと。ちおとぢおとくおと回おと向おとしおとておと居おとりおとけおとふおと。又おと平おとがおと妹おと於おと竜おと朽おと木おと塗おと盆おと盃おと日おと野  
おと腕おととおとちおと持おとつおとておと藤おと林おとのおと斎おとどおとりおと。まおととおといおとひおとつおと。修おと行おと者おとのおと教おととおとつおとく  
打おとまおとりおとりおと。まおとちおといおと佐おととおと良おと三おと八おと郎おとふおとあおとぢおととおとやおとといおとひおとておと。おおとちおとちおととおと手おと小おと持おと持おと物  
をおと。地おと上おとふおとくおととおと取おとかおととおととおと。修おと行おと者おとつおとぢおとりおと。まおとちおとふおととおとちおとちおと何おと人おとぞおと又おと忘おとしおとと  
たりおとといおとふおと。於おと竜おと泣おと声おとあおとておと又おと忘おとれおとしおと。まおとちおとちおともおといおとふおとくおとまおと妻おとハおととおとちおと小  
殺おとされおとたりおと。藤おと浪おとがおと妹おと竜おとといおとふおとゆおとのおとありおと。まおとちおとのおと時おと妻おとハおと十三おと才おと京おと都おと佐おととおと木  
の旅おと館おとのおと寢おと間おと小おと通おとふおと廊おと架おと少おとておと手おと燈おとのおと光おとりおと小おと教おと又おと合おとせおとたおとりおとふおと又おとちおとけ

たる三おと八おと郎おと刀おとのおと鉾おと打おとふおと手おと燈おととおとちおととおとあおとちおととおと遊おと去おとたりおとのおとあおとぢおとくおとあおとぢおとん。  
折おとしもおと風おと雨おとをおとげおとておと庭おと木おとのおと花おともおと風おと前おとのおと灯おと火おととおとちおとえおとなるおと。姊おとのおと敵おと。覺おと  
悟おとせおとしおととおとちおとりおととおとばおと。まおとちおとわおとぢおとりおと屏おと風おとのおとおおとぢおと小おと様おと子おとをおとちおとりおとぢおとふおと浮おと世おと又  
平おと。カおととおと後おとておとまおとぢおとりおと出おとぬおとのおととおともおといおとふおととおと斬おとけおとくおと。修おと行おと者おと手おとをおとちおとぢおとくおと。  
あおとちおとりおとふおとありおとゆおとふおと机おととおとちおとりおとておと丁おととおとちおとりおとゆおと。血おとふおととおとちおとにおとなるおと。昔おと黄おと赤おと白おとのおと繪  
のおと具おと四おと方おとふおとまおとちおととおと飛おと散おとておと秋おとのおと花おと野おとふおと異おとなりおととおと。又おとちおとりおとつおとくおととおとちおとりおとけおとまおとあ  
ておと。いおとふおともおと某おとがおと実おとのおと姓おと名おとハおと佐おととおと良おと三おと八おと郎おと。今おとのおと名おとハおと六おと字おと南おと无おと右おと衛おと門おととおとすおとと。  
あおとちおとあおとちおと。藤おと浪おとといおとふおと女おととおと殺おとせおとしおと。又おとおおとぢおとちおとありおと。まおとちおとりおとまおとぢおと毒おと細おとのおと由おと急おととおとのおとちおとりおとちおとりおと。  
あおとぢおとくおと待おとちおとりおとゆおととおとちおとりおととおと。又おと平おと耳おとあおともおと同おと入おととおと頭おととおとちおとりおとちおとりおと熱おとのおとこおとみおとておとを  
ちおとちおとりおとつおとけおとぬおと。あおとちおと右おと衛おと門おと錫おと杖おととおとちおとりおとておと。ちおとちおとりおとちおとちおとしおとつおとまおとすおとちおとりおと。子おと細おとといおとえ  
ぬおと。まおとちおとちおとあおとちおとちおとちおとりおとちおとちおとりおと。あおとぢおとちおとりおとくおととおとちおとちおとりおとけおとりおと。又おと平おとハおと吃おと寒おと言おとやおとりおとる

うふ心せけが。ものりあことあつらふと唯口指さしてきといつと傍り  
 於竜をその丹とことなる血と筆ととりて与つじが。又平らねとと。机の  
 よふめのゆくと。あむ右衛門読らざら。らんぢ六年以前長谷部雲六と  
 せんり者といひ合せ佐々木の家宝百蟹の絵巻物と奪取するの  
 るど。波浪を害して逃またる大罪人。いそぎのぞき及あん。それげら則  
 是波浪が兄湯浅又平といふ者あり。汝と打て妹が冥途の病恨とを  
 せん之日来心がけたとぞも弗ふくふあれざれば。むほしく月日と地らる  
 子今月今日妹が祥月命日おらぐらあひの因果のめぐる車の輪妹が  
 び、所あらぶ。枕豫せよと比奥あり。観面の悪報妹の敵のぬめ所を  
 ちや勝負と決せよと昏なり。うさび刀とさうなして只一おとさうつ  
 じが。あむ右衛門ちやあむといふべあらぬども。それげらめのめらる子細と

通りさうてさそ。ちやうけらあぶしつあひらひけり。あむ折しも又平が妻  
 小枝。餅とちやあて立ちり。何夏やんとまがぐく門ふたぶとて内の様子  
 とうかひけが。又平がのえやまらあつらと。いをばしく声かけて走り入  
 の手小枝がうてや。ちやあ。かひておんがふものめら。いつぞのめらあひて  
 大恩とあくりん之日来心ふ忘れざり。恩人の則はあんなさあておつとあり  
 とつあぞ。又平大ふおどろた。切あさうとさあつらとて手とさめてぞ生  
 居ら。あむ右衛門のぶう。小枝がわををつく。るねば。いさぬえあ  
 の女あり。小枝はあむ右衛門が前お恭しく手とほさ。さてもさひうけ  
 じ。うさびおん目おめらうれ。き。妻とて六年以前。らんぢあも今月  
 今夜京北山の杉坂めて首盗て死さん世と。金二十両なぬり。危き一命  
 とさうひささ。あむの女あて。則とさあつら。又平が妻小枝とやとものあてゆ。



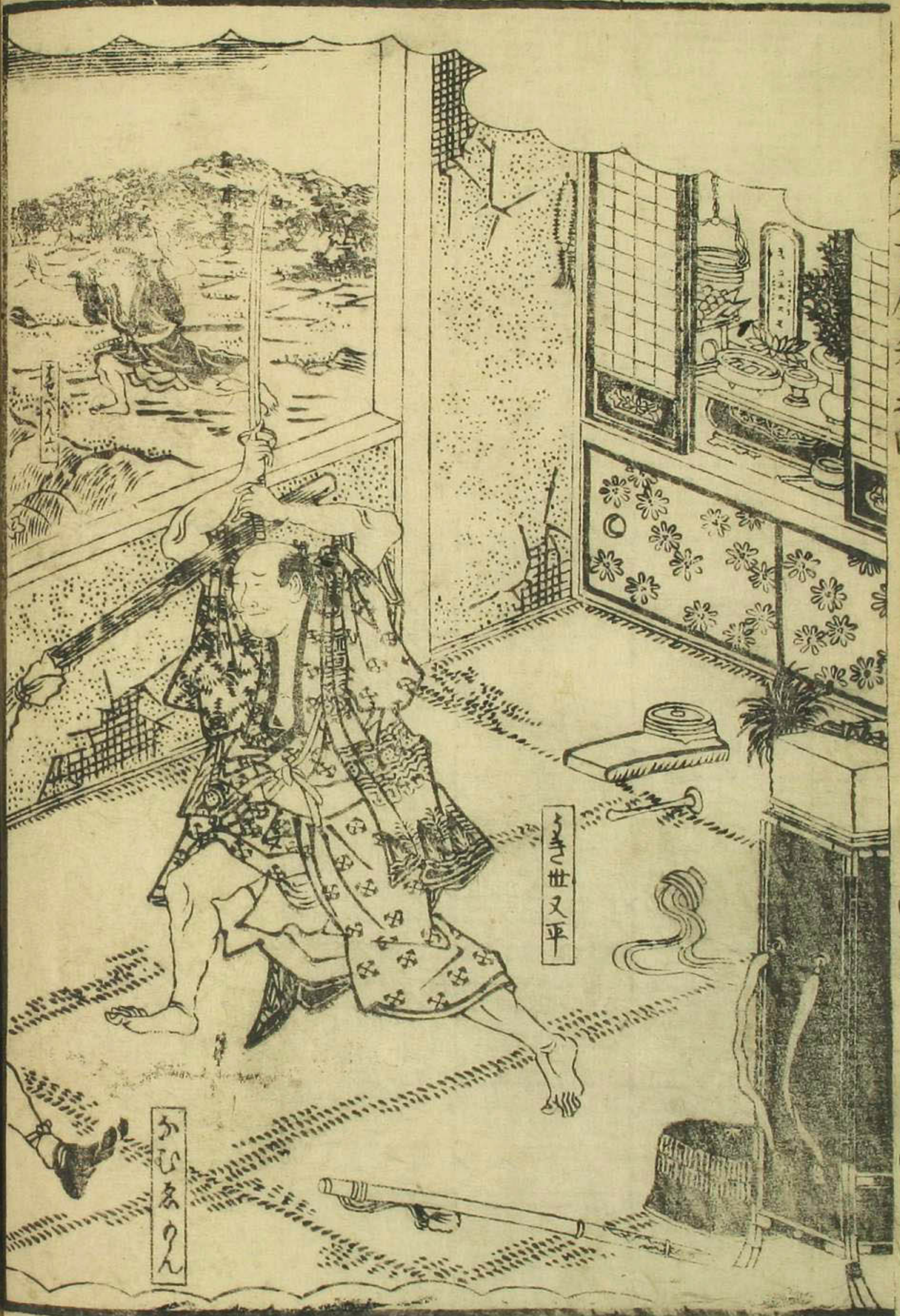
六字かむを束の  
 修行者小  
 泉と拾て  
 大津又平が  
 家に宿を

名古屋巻之四

七五



妻さえど



とき世又平

かひるん

名古屋巻之四

七五



思と云ふ者あり。思と云ひておぼやけ味が真途の恨  
 んぬむの思と云ふ仇と云ふゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、思案つる  
 思と云ひて仇と云ふゆゑ、仇と云ひて思ふゆゑ、心と決し、思  
 ついてカと鞘ふゆゑ、思と云ひて思ふゆゑ、思と云ひて思ふ  
 某友浪どりと殺し、全く非義非道ふゆゑ、思と云ひて思ふ  
 若殿桂之助どの在京の刺友浪どりの艶色不迷不破伴左  
 衛門がたぐひの倭臣等ふゆゑ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ  
 名古屋山三郎と某志、諫となて、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ  
 若室町御所の御耳ふゆゑ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ  
 越の范家三施と兵部、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ  
 不便と云ふ思と云ひ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ

友浪どりと殺し、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ  
 権不破道犬が心底の思と云ひ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ  
 妻と具し、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ  
 思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ  
 友浪どりの思と云ひ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ  
 兄と云ふ思と云ひ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ  
 のち丹波の国小住、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ  
 巻物と奪たる、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ  
 子と云ふ思と云ひ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ  
 改名し、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ、思と云ひて思ふ

深く父の汚名とてとがんと。あて物芝居小糸と賣て金とてのへがの  
 巻物と買とりたる。夏月若小妻磯菜とつけて河内の国某の寺小糸の  
 ばせに。おのれへ回国の修行者小糸を拾へて。この巻物となづかへ挂之  
 助いふの二則二方の口へとなづぬ小出てけやも不思議ふらふやとて  
 さねやど位牌の法名とて。似たるまことひしきで。らるるに語り  
 ぬ。又平夫婦お竜も。もろて其実と知たひまぬ。忠臣マと轉  
 感嘆おなづりけり。あむ右衛門のさめていそく。おんお号小出合。恨の  
 ぬ小つらとて死し。冥途ふいそとて藤波どのふひひつけせんことへ。ひて  
 望む所あれども。主君御夫婦御親子の先途とてさづけ。再世小出  
 まあふとてまてい死あられ命あつた。あらの間某が命と某おあづけ地  
 たぬいとし。この病願とてせし。この首さうのさておんお号小出

常言おも大夫夫の一言ハ驕馬も走どとと。若し詞小  
 露なるもつらつらあぐ。立地小天地神明の御謝とつら。ふた  
 恩ハ恩仇ハ仇あ。少一の恩とて覚悟の命とたどつた。死所  
 存ありと。詞さし。いひけむ。又平返答の詞い。つとまて。か  
 と。つとと。扱るるち。あむ右衛門がたつさ。編笠とどらと斬て  
 仏壇子手向。いふ。浪汝が敵佐。良三ハ郎が首と。かくのごとく。ち  
 ち。速小恨み。いそ。仏果と得。南无阿弥陀仏。いそ。仏と。ち  
 切南无右衛門。いひ。の晋の豫讓が例。あむ。今。已。小妹。仇。い  
 たり。い。恨。い。は。い。小妻。小枝。命。救。あ。い。大。恩。と  
 報。い。の。あり。その恩。以。報。い。死。仕。方。い。か。と。い。その。紙。と。押  
 ひ。け。一。回。の。う。ち。小。声。あり。そ。某。さ。れ。わ。ど。い。り。と。あ。あり。と。委。細。の。意

と同じほろもといひつゝ。立せし人へ乃是別人ふあつど。佐々木桂之助国  
 知あり。あむ右衛門掾のいしを退けて平伏せしが桂之助のいしを  
 へ我倭者の為ふとあらざるをいと乱し。汝等が諫言はらひて  
 今もなほ波浪が非業の死へ畢竟我手成らばて殺せしも同然あり  
 我眼ありとあつど。誠の忠臣とあつどとあつど百蟹の巻物を奪し  
 も汝が仕業とあつど。大なる誤りなり。今汝が女のあつどとあつど楓  
 が孝行あり。巻物とりしあつど出し。文弥が忠義ありて月若も恙  
 ありとあつど。なほいしれりる者どもが不便なる方の果とあつど悲歎せ  
 けりど。我不行跡ありて父の勘気とあつど。すくすく漂泊の才  
 とあつど。今後悔とあつど。更ふあひる。いれあつど。恥とのこ  
 さんとして自殺せしとあつど。いしとあつど。なほいしれりる者どもが道大謀計

館の騒動とあつど。あつど。父のいしれりる者どもが不便なる方の果とあつど悲歎せ  
 まし。御勘気のあつど。いしとあつど。なほいしれりる者どもが道大謀計  
 ころはあつど。いしとあつど。なほいしれりる者どもが道大謀計  
 由急小零落せしとあつど。いしとあつど。なほいしれりる者どもが道大謀計  
 即不破伴左衛門がなめふ父とあつど。いしとあつど。なほいしれりる者どもが道大謀計  
 不者ふあひてとあつど。いしとあつど。なほいしれりる者どもが道大謀計  
 気づくいあそとあつど。いしとあつど。なほいしれりる者どもが道大謀計  
 再世ふいしとあつど。いしとあつど。なほいしれりる者どもが道大謀計  
 どとあつど。いしとあつど。なほいしれりる者どもが道大謀計  
 椽さる撲地とあつど。いしとあつど。なほいしれりる者どもが道大謀計  
 ども。飛るとあつど。いしとあつど。なほいしれりる者どもが道大謀計



